

Book Talk

編集・発行 海南高校図書館
第 18 号 2013.07.11

読書、初心者です。

小学校 5 年生のころ、プロフィール帳の交換が流行ったときに“趣味は読書”と書いていた友だち。「なんだか…大人やなあ」と密かに憧れを抱いていました。「私も“趣味は読書”と書いてみたい。」当時 11 歳の少女の心は燃えていました。それならば、友だちも読んだことのない、うんと分厚い本を借りることにしました。忘れもしない、宮沢賢治さんの『銀河鉄道の夜』。こんな分厚い本を休憩中に読んでいたら、絶対みんなビックリするやろうなあ〜とニヤニヤしながら意気揚々と 1 ページ目へ。……………あれ？気を取り直し、もう一度 1 ページ目へ。……………こ、……………これは……………難しすぎる。見事に撃沈。そっと返却日まで机の中に眠らせておくという甘酸っぱい思い出となりました。少々、ハードルが高すぎてしまい、11 歳の少女の趣味読書への道はこれにて幕を閉じました。

しかし、そんな私に運命的な出会いが訪れます。

(運命の“人”ではなく、もちろん“本”です。)

それは、全世界に一大ムーブメントを起こした魔法の国の物語。J. K. ローリングさんの『ハリー・ポッター』です。



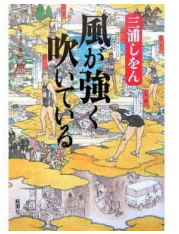
当時ローリングさんは全くの無名の新人作家でしたが、1990 年代のイギリスを舞台に魔法使いの少年の友情・苦悩・愛を通して、強大な闇の力との戦いを描いた作品を次々に生み出していきました。小学校 6 年生のとき、妹が両親にクリスマスプレゼントとして買ってもらったのが、シリーズ第 1 作目の『ハリー・ポッターと賢者の石』でした。毎晩のように、妹の部屋からは何度もページをめくる音が遅くまで聞こえてきました。そんなに面白いのかな？そう思い、何気なく手にとって読んでみると…これが止まらない。時間を忘れるとはこういう感覚なんだと初めて体感した瞬間でした。終始、ワクワク感に包み込まれ、結局、私はなんと 2 日で『ハリー・ポッター』を読破してしまいました。その後、映画化されると聞いては観に行き、関連グッズも妹と 2 人でお小遣いを出し合って買うなど、どっぷりハリポタ世界に浸かりました。ちなみに、私は主人公のハリーよりも、ちょっとドジだけど憎めないロン・ウィズリーが好きでした。絶妙なタイミングで出てくる“ほとんど首なしニック”も名脇役です。そして何といても話の中で出てくる摩訶不思議なお菓子たち。“蛙チョコ”は魔術師や魔法のカードが 1 枚付いてくるオマケつき、“パーティーポッツの百味ビーンズ”は美味しそうなものから想像を超える味までと食べてみたいような、食べてみたくないような気分になりました。(ちなみに、ダンブルドア校長先生は耳クソ味を引き当てていました。)

『ハリー・ポッター』を読み返してみると、このワクワク感随所に表現された“言葉”がもとになっているのではないかと思います。「組み分け帽子」や「名前を言っはいけないあの人」、「許されざる呪文」など日常生活では使いませんが、なんだか神秘的で、ドキドキしませんか？翻訳家の松岡佑子さんから生み出される素敵な言葉も『ハリー・ポッター』の魅力の 1 つだと感じています。

今でも、趣味は読書とは程遠い道のりを進んでいますが、少しでも時間を見つけて本をポチポチと読むことを心がけています。自分のペースでポチポチです。その中で、本を読んでワクワク、ドキドキと心や脳を揺さぶろうという気持ちを大切にしています。ユーモアミステリーは一時



期とても気に入りに、赤川次郎さんの『三姉妹探偵団』シリーズを集めては、繰り返し読んでいました。天然パワー炸裂の長女、しっかり者の次女、そして金銭感覚抜群の三女とタイプが全く違う三姉妹が大活躍して、事件の謎を解明していきます。クスッと笑えて、三姉妹の絆にグッとくるのがいいです。また、青春ものも好きで、最近読んだ本で心が熱くなったのは三浦しをんさんの『風が強く吹いている』です。箱根駅伝を目指す話で、予選会突破から箱根本番のシーンは何度も鳥肌が立ちました。とても読みやすい本だと思うのでおススメです。先日、本屋さんにふと立ち寄った時に児童書コーナーで見つけた『スーホの白い馬』は思わず、懐かしいなあ〜と手にとって読みました。モンゴルの民話です。小学校 2 年生のときに国語で勉強した懐かしさと、初めて読んだ時の心がキュッと締め付けられた気持ちを思い出しました。そして、最近マイブームは“言葉シリーズ”の本です。気になる言葉やその時に胸に響いた言葉はメモしたり、そのページに付箋をはったりしています。柴田陽子さんの『ものさし言葉』はとても前向きで元気になる言葉が溢れていて、私の愛読書です。常にカバンの中に忍ばせています。社会人となり、働くという中で、この本は今の自分自身の状態を知るバロメータになっています。『超訳 ニーチェの言葉』はドイツの哲学者ニーチェの名言や格言がズラリと並んでいます。ちょっと哲学なんて難しそう…と思いきや今の生活にリンクしたものが多く身近に感じる事が出来ます。その中で 2 つの言葉を紹介したいと思います。まず、



“努力を続ける”。「高みに向かって努力を続けることは、決して無駄ではない。今は無駄が多くて徒労のように見えるかもしれないが、少しずつ頂点へと進んでいるのは確かなのだ。今日はまだ到達にはほど遠いだろうが、明日にはもっと高みへと近づくための力が今日鍛えられているのだ。」¹ すごく力強く、自分を奮い立たせる言葉だと思えます。勉強でも、クラブでも何事においても通じるものだと私は感じました。そして、もう 1 つは“この瞬間を楽しもう”。「できるだけ幸福に生きよう。そのためにも、とりあえず今は楽しもう。素直に笑い、この瞬間を全身で楽しんでおこう」² 毎日を楽しむ、そして 1 日 1 日を大切にすると、いつか気付かせてくれた言葉でもあります。みなさんの高校生活はどうか？楽しんでますか？



そろそろ夏休みですね。この夏は長編小説に挑戦しようと考えています。上川隆也さん主演の『ステップファザー・ステップ』というドラマでファンになった宮部みゆきさんの作品を読んでみようと思っています。ついこの間、小泉孝太郎さん主演の『名もなき毒』も始まりましたね。これも宮部さんの作品です。まずは、家にある『ソロモンの偽証』の読破を目指します。700 ページ以上が 3 巻です。もちろんポチポチと読みます。ワクワク感が待ち遠しい今日このごろです。

読書、初心者ですが、本を読んで、みなさんも一緒にワクワク、ドキドキしませんか？

(社会科 浜口知佳)

¹ 『漂泊者とその影』より

² 『悦ばしき知識』より

